

百号記念出版に際して

東京大学 名誉教授
田畑 米穂

記念号出版おめでとうございます。

放射線化学に関しては、色々の思い出があります。各種の国際会議がありますが、最初の国際会議への出席は1962年英国のハロゲイトにおける第2回放射線研究会議への出席でした。そこでの強い印象は、インフォーマル・ミーティングでの私共の研究-低温固相重合-についての招待による発言でした。それに引き続く諸々の会議がありましたが、特筆すべきは、日仏放射線化学協定による2国間の会議に出席したことであり、日仏交互に会議を開いて出席いたしました。

第二は日米放射線化学会議で1966年に日米間の放射線化学シンポジウムが開催されることになりました。交互に日本とアメリカで数年間にわたって開催されました。米がこの分野で進んでいましたので日本は学ぶことが多かったのです。

第三は日本と中国の日中化学シンポジウムであったと思います。大阪大学の故林教授と上海科学技術大学の馬教授とが提唱された会議です。それ以降、交互に日本と中国で開催され約10年前迄続いたと思います。中国は放射線化学が遅くスタートしたので、日本から学ぶことが多かったと思います。

第四は1979年から放射線利用を含む日伯科学技術シンポジウムが開催され、日本側は故向坊隆元東京大学総長が委員長でブラジル側はその都度交替されました。日本側の幹事が私であり、ブラジル側の幹事はサンパウロ大学物理学教室の渡辺茂雄教授であり、1995年頃迄続いたと思います。

などなど国際会議の出席は続きましたが、細かいことについては省略します。

ここで提案があります。

1つは将来、放射線化学会と核化学会が合同して一つの会になればと思っています。前に提案したことが

ありますが、今もその意見はかわっていません。

2つ目の提案については、女性の役員や会員を今後増やしていただきたいことです。

ますます活発に活動されるよう心からお祈り致します。

On Publication of 100th Memorial Issue
Yoneho TABATA (Professor Emeritus, The University of Tokyo),
〒203-0023 東京都東久留米市南沢 5-18-38-702
TEL: 042-446-8650, E-mail: y1928t@jcom.zaq.ne.jp